

特集

## 南九州発、焼酎びんのリターナブル化

焼酎ブームに乗って、新しいリユースシステムづくりが動き出した。

経済産業省と環境省が 3R 政策の一環として、南九州地域のリユースシステムづくりに着目。

数年前から全国的に注目され、ブームを巻き起こした焼酎。その主要産地であり消費地でもある南九州地域で、リユースシステムの構築をめざした動きが、3R 政策の一環として経済産業省と環境省により展開されています。

そのひとつ、経済産業省が平成15年度に実施した「南九州地域における焼酎びんのモデルリユースシステム構築検討調査」では、南九州地域(大分・熊本・宮崎・鹿児島)の焼酎メーカー197社に対してアンケート調査を行い、焼酎びんのリターナブル化について、その可能性や利用の意向等を報告書にまとめています。

また環境省が平成15年度・16年度に実施した「南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業」は、南九州地域(熊本・宮崎・鹿児島)の焼酎びん(900ml茶びん)を、今まで使っていたワンウェイびんからリターナブルびんに変えていこうという試みで、新しい900mlのRマークびんを投入したリユースシステムが展開されています。

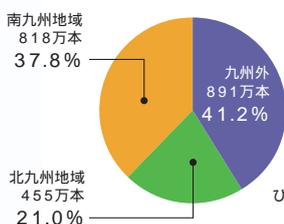
3R 政策: 循環型社会の形成をめざした Reduce(リデュース: 発生抑制)、Reuse(リユース: 再使用)、Recycle(リサイクル: 再利用)の取り組み。

焼酎メーカーへのアンケート調査では、900mlリターナブルびんの利用に前向き。

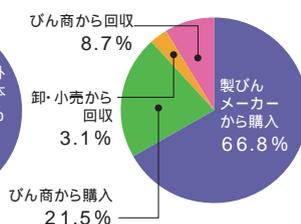
南九州地域では、もともと焼酎の容器として900mlのワンウェイびんが流通しており、あきびんの処理費用が問題になっていました。またきちんと回収されたびんについては、洗浄してもう一度使用するという動きもありましたが、くり返しの洗浄に耐える機能性を備えていないことから、現在では積極的には使用されていないという状況があります。

このような状況の中で実施された、南九州地域の焼酎メーカーへのアンケート調査(経済産業省)によると、900mlびんのリターナブル化実現の可能性について、「可能である」と「条件つきで可能である」の回答を合わせると57.1%。また利用意向については、「積極的に利用したい」、「利用したい」、「条件次第では利用したい」の回答を合わせると60.3%になっています。さらにリターナブルびんを利用する際の条件としては、「経済的なメリット」、「消費者の認知向上」、「環境配慮に対する要望」、「酒造組合、行政からの要請・指導」といった回答があげられました。

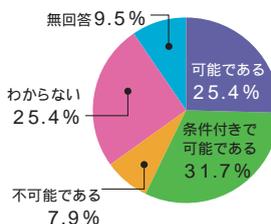
南九州地域における900mlびん入り焼酎出荷状況(特殊な形状のデザインびんを除く)



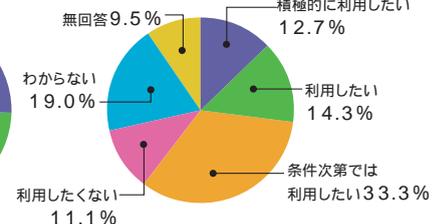
南九州地域における900mlの再使用びん回収・新びん購入状況



南九州地域における900mlびんのリターナブル化実現の可能性



南九州地域における900mlリターナブルびんの利用意向



資料:南九州地域の焼酎メーカーへのアンケート調査(経済産業省)

# 新しい900mlのRマークびん登場。焼酎びんのリターナブル実現へ!

～南九州における900ml茶びんの統一リユースシステムモデル事業～

焼酎びんのリユースシステムの確立をめざし  
流通関係者ならびに自治体が協力体制をとる。

このモデル事業は環境省が一般公募で実施する「循環型社会形成実証事業」で、南九州地域において主に焼酎容器として使用されている900mlの茶びんに、規格統一のRマークびんを導入。回収・洗浄・再使用のシステムを確立することにより、エネルギーの節約と廃棄物の削減を実現し、循環型社会形成の一助となることを目的としています。

リユースのシステムづくりでは、流通に関わる事業者の参画が大前提となりますが、今回の事業では南九州地域の焼酎メーカー、酒類販売店、びん商の緊密な共同事業体制が組み込まれました。また自治体、ガラスびん関係団体、酒類業界関係団体、NPO・NGO団体等の協力が得られたこと、さらに一般消費者の協力があって事業が動き出しました。

従来の900mlびんとの差別化を図った  
規格統一の新しいRマークびんを開発。

新しいリユースシステムの主役となる900mlのリターナブルびんについては、日本ガラスびん協会の協力で規格統一のRマークびんを開発。新規に金型をつくりました。くり返しの洗浄に耐える機能性はもちろんのこと、従来のワン



900mlワンウェイびん



900mlRマークびん

ウェイびんとの差別化を図ったデザイン性も重視。肩の部分に梨地を入れ、その上にRマークの刻印を2箇所施しており、焼酎びんらしさを踏襲しながら、リユースを主張した個性的なびんに仕上げています。

新しい900mlRマークびんの投入には大賛成！  
賛同する焼酎メーカーが増えることに期待したい。



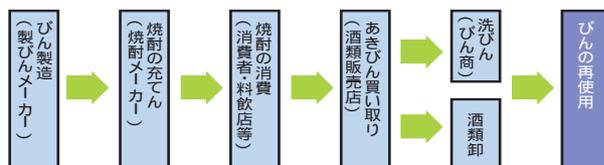
大口酒造協業組合  
専務理事  
向原英作氏

鹿児島県では、使用済みのびんをメーカーに戻すという商習慣が根付いていましたから、当社でも900mlの茶びんをワンウェイびんでありながら、社内で洗浄して使っていました。そのため、新しい900mlRマークびんの投入には、まったく抵抗がなく大賛成でした。

Rマークびんを使い始めて2年目ですが、現在は先行投資の段階です。今後、出荷量が増え回収率が上がり、リユースシステムが確立されれば、びんに係るコストが軽減でき、確実に経済的なメリットが出てくると思っています。目標は500万本の新びん投入です。そのためには、この事業に賛同する焼酎メーカーが増えていくことが大切で、

酒類販売店が消費者や料飲店から  
あきびんを5円で買い上げるシステムに。

この事業で開発された新しいRマークびんの主な回収ルートは、下記の通りです。製びんメーカーにより製造されたRマークびんに、焼酎メーカーが焼酎を充てんし、酒類販売店を通して消費者や料飲店に販売。中身が空いたRマークびんは酒類販売店が5円で買い取り、びん商に洗浄してもらってから焼酎メーカーが再び使用するという仕組み、または酒類販売店から酒類卸を経由して焼酎メーカーに納められ、焼酎メーカーが洗浄して再使用するという仕組みです。この他に自治体から分別回収されたRマークびんについても、びん商がまとめて洗浄し焼酎メーカーに納めています。



新Rマークびん採用の焼酎メーカーは4社。  
鹿児島県内からの回収率は約50%に。

事業立ち上げ当初より準備を進めていた鹿児島県の焼酎メーカーより、平成16年4月、900mlRマークびんを使った焼酎の市場出荷が開始。同年10月には、同県の焼酎メーカー2社が加わり、今年8月には熊本県の焼酎メーカー1社が参加しました。

現在この900mlRマークびんは、鹿児島県を中心に南九州地域内外に出荷されています。出荷本数は平成16年度が約140万本、平成17年度は8月までで約60万本、合わせて約200万本に達しています。また平成17年度の鹿児島県内における回収率は、8月までで約50%になっています。



大口酒造の洗びんライン

とくに大手の焼酎メーカーの参加に期待します。

このRマークびんには環境的にも経済的にも価値がある、ということを上手にアピールしていきたいですね。



900mlRマークびんを使用した商品

## 新Rマークびんを紹介する広報活動を展開。 様々なメディアに注目され広く報道される。

今回のモデル事業の広報活動については、主催者である  
\*社団法人 環境生活文化機構が新しい900mlRマークびん  
を紹介するパンフレットをはじめ、チラシやポスター等  
を作成し、関係省庁、自治体、ガラスびん関係団体、酒類販  
売店、料飲店、消費者等に広く配布し、アピールしました。  
このような活動で循環型社会づくりをめざす新しい取組と  
して、九州を中心に新聞、テレビ等の様々なメディアで注  
目され、広く報道されています。

さらに水俣市では、市民に配布する広報紙で、特別に



分別収集のチラシ

900mlRマークびんの  
回収方法やびんの特徴  
などを告知。分別収集  
のチラシの中でも、R  
マークのあったびんを  
生きびんとして分類す  
るよう紹介しています。

社団法人 環境生活文化機構：環境保全に寄与することを目的として  
設立された、環境省所管の公益法人。

## 熊本で「Rびんを広める会」が発足。 県議会議員等がRマークびんの普及に協力。

鹿児島県内の焼酎メーカーが900mlRマークびんを採用  
していく状況の中、熊本県内でもこのびんを普及拡大させ  
たいという声があがり、平成17年1月に、熊本県議会、学  
識経験者、酒類販売業界、NPO・NGO団体、一般市民等  
による「Rびんを広めよう会」が発足しました。

### 焼酎びんのリユースシステムは、 南九州地域に根ざす、まさに「地産地消」の事業。



水俣エコタウン  
協議会 会長  
田中利和氏

私どもは環境省と経済産業省により承認さ  
れたエコタウン事業の一環として、水俣市で  
分別収集されたあきびんを洗浄してリユース  
するという事業を展開してきました。

その流れで実現した900mlRマークびんのリ  
ユースシステムは、南九州地域で生産された焼  
酎が地元で消費される中、あきびんが回転す  
ることにより、ゴミの削減に役立ち、地域経済が  
活性化して雇用も生まれるという、まさに「地産  
地消」の事業です。今後、このRマークびんを使  
う焼酎メーカーが増えることで、南九州地域の  
リユース事業が大きく前進していくと思います。

会長の荒木ひとみさん（熊本市民）  
は「昔から日本には、世界に誇れる  
文化としてリターナブルびんがあっ  
たのだと思います。ライフスタイル  
の変化や利便性が求められ、段々と  
減少してきたリターナブルびんです



「Rびんを広めよう会」  
作成チラシ

が、ゴミ削減や温暖化対策のことを考えれば、みんなでも  
う少し後押しして、普通に選べる状況にしたいですね。今  
回のRマークびんには、焼酎のみならず地元産の醤油や酢  
が入れられるようになることを期待します」と。また南良  
輔さん（熊本市小売酒販店組合理事）は「ひと晩で飲みき  
った焼酎のびんは新びんと変わらず、それを使わないのは  
もったいない！消費者がリターナブルびんを酒屋に戻すこ  
とでコミュニケーションも生まれ、もちろん経済的なメリ  
ットにもつながるでしょう」というような気持ちで、  
900mlRマークびんの普及に一役買っておられます。

また3月には、「Rびんを広めよう会」の設立メンバーであ  
る現職県議会議員の呼びかけにより、超党派で県議会議員  
や副知事など約50人が集まり、Rマークびんに入った焼酎  
による「Rびんで飲もう会」が盛大に行われました。

このような動きがきっかけとなり、新たに8月より、熊  
本県内の焼酎メーカーが地元の球磨焼酎に900mlRマーク  
びんを採用しています。

## 900mlRマークびんの南九州以外での展開、 さらに焼酎以外への可能性が期待される。

南九州地域では実に様々な焼酎が製造され地元で消費さ  
れていて、びんのリユースシステムを展開させやすい状況  
があります。地元の焼酎メーカー、酒類販売店、びん商な  
どの連携に自治体が協力し市民が盛り上げていくこのシス  
テムは、地域経済の活性化にもつながる大切な仕組みです。

今後は、南九州以外の地域でも、この900mlRマークび  
んを採用した新たなリユースシステムが展開されることが  
望めます。さらに現在焼酎の容器として使われている  
900mlRマークびんには、醤油や酢や料理酒などを入れる  
という可能性もあり、規格統一のRマークびんならではの  
展開も大いに期待されます。

### 環境モデル都市づくりをめざす水俣市では、 900mlRマークびんの分別を促しています。



水俣市総務企画部  
企画課地域づくり  
推進係 係長  
松木幸蔵氏

水俣市では、環境をキーワードにしたまち  
づくりを進めており、ごみの22品目の分別収  
集は、全国的にも注目されている取組です。  
そのような中、水俣市のエコタウン企業によ  
り生まれた900mlRマークびんのことは、広  
報紙で市民に周知し、ステーションに立っ  
て分別のお手伝いをしてくれるリサイクル推  
進員への説明会も行っています。

今後、市民にこのRマークびんを使用す  
るライフスタイルが定着するようPRし、さら  
に水俣らしい環境モデル都市づくりをめざし  
ていきたいと思っています。